

目指す学校像	生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、豊かな自己実現を促す学校
--------	------------------------------

重点目標	1 深い学びの価値を実感し、生き活きと学習する生徒を育成する。 2 生徒の安全・安心への意識やスキルを高める。 3 学校運営協議会への生徒の参画を推進する。 4 明確な目標をもち、自己の資質向上をめざす教職員を育成する。
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標				年度評価			実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	(現状) ○全体的に落ち着いた態度で授業に臨み、学習課題に集中して取り組むことができています。 ○話し合い活動等に対しても、仲間と積極的に取り組む生徒が多い。 ○全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査結果は、各教科とも概ね平均的である。また、質問紙調査における結果も、概ね良好である。 (課題) ○学力調査等において、自分の意見をまとめ、発信する力に課題が見られる。 ○数学において得点分布に2極化の傾向が見られる。 ○家庭学習の取組(内容・習慣等)に個人差があり、全体的に課題が見られる。	・深い学びを実感できる授業実践	①各教科において、「学びのじしやく」に基づく生徒主体の授業を実施する。 ②各学年の「STEAMS TIME」において、課題解決、教科等横断的な学習活動を実施する。 ③キャリア教育においては、第2学年「未来くるワーク」を軸としたキャリアラムマネジメントを行う。	①アンケートによる生徒の評価及び学校評価による教職員の評価が、向上しているか。 ②実生活、実社会と関わりをもちながら課題解決学習を進めることができたか。 ③「未来くるワーク」と第1・3学年のキャリア教育の指導計画の間に系統性を構築することができたか。				
		・学習習慣の定着を図る家庭学習の実践	①本校独自の「実のチャレ」を全教職員で取り組み、生徒の家庭学習へのモチベーションを高める。 ②家庭学習用の課題に、スタディサプリを利用する等、ICT機器の優位性を活かす。	①各学年において、計画的かつ効果的な「実のチャレ」を課すことができたか。 ②前年度よりスタディサプリの活用実績、学校評価生徒アンケートの「家庭学習への取組」の数値が向上しているか。				
2	(現状) ○7割以上の生徒が自転車通勤しており、一昨年度は登校中の事故により救急搬送されるケースもある。 ○令和5年度学校評価生徒アンケートにおける「楽しく学校生活を送っていますか」の項目について92%、「先生方は悩みや相談に親身になって応じてくれていますか」の項目について90%が肯定的な回答だった。 (課題) ○交通量が多い、防犯上の危険があることに加え、自転車通勤者の大幅な増加が見込まれ、登下校の安全性の担保が喫緊の課題である。 ○不登校、別室登校生徒への対策のみならず、全生徒が安心・安全な学校生活を送ることができ体制づくりが求められる。	・生徒が主体的に取り組む交通安全教育活動の実践	①生徒会組織特に安全委員会等を軸とし、生徒主体の安全教育に係る取組を実施する。 ②「STEAMS TIME」の第1学年において、交通安全に焦点を絞った課題解決学習を実施し、自分自身が美園地区の安全・安心をつくる一員であることの自覚を深めさせる。	①委員会活動等において、生徒が主体となった「交通安全」に係る取組が実施されたか。 ②第1学年の「STEAMS TIME」において、交通安全教育に結び付いた探究学習を行い、自分たちの意見を発信し、行動に移すことができたか。				
		・生徒一人ひとりが主体的に取り組む心の教育活動の実践	①「美園ハートフル・プロジェクト」に基づき心と生活のアンケートや面談を定期的実施し、生徒理解を深めるとともに、生徒会組織等を軸とし、生徒主体となった取組を実施する。 ②さわやか相談員やスクールカウンセラー等の専門職と連携し、新設の sola 一むを活用した組織的な教育相談体制を構築する。	①生徒理解や支援のためのアンケートや二者面談を定期的に行い、学校評価生徒及び保護者アンケートの「相談」における数値が向上しているか。 ②アンケートや事案等に、教員と専門職が連携して対応する組織的な教育相談体制が構築されたか。				
3	(現状) ○学校運営協議会において、熟議を通して「通学路の安全確保」という本校の課題を共有し、今後の方策等について活発に意見交換することができた。 (課題) ○学校運営協議会への生徒の参画 ○「通学路の安全確保」という本校の課題に対し継続して対策を検討していく必要がある。	・通学路の安全について保護者や地域とともに考える場の充実	①学校運営協議会において、本校の現状や課題を共有し、改善の方向性を見出す熟議を行う。 ②学校運営協議会やPTA、地域等による「通学路安全検討委員会」を開催する。	①学校運営協議会において本校の「通学路の安全確保」について共通理解を図り、熟議を深めることができたか。 ②「通学路安全検討委員会」を発足することができたか。				
		・学校運営協議会への生徒会本部役員の参画	①第2回学校運営協議会において、生徒会本部役員から提案された学校課題について熟議を行う。	①第2回学校運営協議会において、生徒会本部役員から提案された学校課題について熟議を行うことができたか。				
4	(現状) ○昨年度は「教科等横断的な視点から多面的な価値を創造する学習指導の研究」という研究主題のもと、各教科及び「STEAMS TIME」において主体的、対話的で深い学びについて研究を深めた。 ○エバンジェリストやICT支援員を中心に、各職員が研修に努め、職員の授業等でのタブレット等の活用状況は概ね良好である。 (課題) ○主体的、対話的で深い学びを実施するに必要かつ効果的なICTの活用が求められる。 ○経験年数の浅い職員が増加しているため、校内研修のみならず、様々な研修をさせることが必要である	・「教師が教える授業」から「生徒が主体的に学ぶ授業」への推進	①隔週木曜日に「研修推進委員会」を実施し、各教科における指導と評価の在り方、「STEAMS TIME」との系統性等について研修をおこなう。 ②エバンジェリストを軸とし主体的、対話的で深い学びを実施するに必要かつ効果的なICTの活用研修を実施する。	①「研修推進委員会」が定期的開催され、意見を吸い上げたり取組を発信したりするなど、効果的に機能したか。 ②各教科等において、ICTを効果的に活用した主体的、対話的で深い授業実践を行うことができたか。				
		「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励」の推進	①昨年度より始まった「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励」について人事評価時に確認し、教職員個々に応じた研修計画を作成する。	①教職員が、当初面談時に計画した研修に取り組み、資質向上に努めることができたか。				